令和３年度 “ふじのくに”士民協働 施策レビュー 改善提案とりまとめシート

1 基本情報

政策	政策８ 世界の人々との交流の拡大		
政策の柱	８－３ 交流を支える交通ネットワークの充実		
議論した施策	（３） 競争力の高い富士山静岡空港の実現		
実施日／班名	７月 11 日（日） 第６班	担当部局名	スポーツ・文化観光部 空港振興局

2 コーディネーター取りまとめコメント（コーディネーターが議論を総括して取りまとめ）

静岡県民にとって、誇りの持てる富士山静岡空港として持続的に運営するため、コンセプト・ビジョンをしっかりと県民と共有①し、運営会社との連携を強化し、収益性を高める努力②をしてほしい。

具体的には、インバウンド対策の強化③や、隣接県有地を活用した施設の魅力向上策④など、早急に取組む必要がある。

空港のアクセスなど、利便性の向上⑤については、現実的に対応が困難であるが、少しずつ改善を進めていただきたい。

新型コロナウィルスで空港運営が厳しい状況にあるが、アフターコロナを見据えて、日本一の地方空港を目指してほしい。

3 施策改善案（県民評価者が記載した改善提案シートの取りまとめ）

①県民の理解を得ながら空港運営を行なうためには、県と運営権者が連携して空港運営に関するコンセプト・ビジョンを県民と共有する必要がある。

②収益性の増加には空港利用のリピーターを増やすことが効果的であると考えられる。県内及び近隣県の中学校、高校等と連携し、修学旅行への活用を推進することで、空港利用のきっかけを作り、リピーター増加につなげる取組が必要である。

③若者を中心に情報発信のツールとなっているＳＮＳに着目し、富士山静岡空港を世界にアピールすることで、インバウンド誘致を進める取組が必要である。
また、旅行会社とのタイアップ等により、空港発の旅行プラン提案等のインバウンド対策が必要である。

④利用者が魅力を感じる空港とするため、西側県有地を活用した今後のプラン等を周知し、“富士山静岡空港固有の魅力”を国内外に強く発信していく取組が必要である。

⑤利便性の向上は利用者の増加につながると考えられるため、空港と周辺駅をつなぐ直通バスの増便や、アクセスマップの作成・公開等、利用者が空港にアクセスしやすい環境を整備する必要がある。